る最初の勞働祭日を行つた當日の參加團體は友愛會、正進會、小石川勞働會、工人會、等の諸團體で左の如き決議を宣言して無事解散した。

吾人は茲に日本最初の勞働

る吾人は今日、世界萬國の勞働者と共に勞働者階級の解放と万人の自由とを絶叫

大阪印刷革新同志會の奮起を喜びて

川瀬勝

勞働組合法も不日具體案となつて顯はるゝは必然今より拾年以前であつた創めて勞働は神聖であると云ふ片體的思想觀念が耳朶に響たことがあつた大正九年の今日漸く雙體的思想觀念となつた爲めに神聖なる定義標的更に其實現効果に意義あることを社會が認むることゝなつた社會政策上の見地より政府も其必要を認め昨年以來勞働會議設置を企て既に内務省に於て豫定案作製中なる趣きである是れ皆な社會の趨勢時代の要求者となり潜伏力を醞たものである想ふに勞働は技職の權威にして勞務に對し又た報償權利者なり阿言諂詐辯口を以て敏腕家杯と稱ふる鼠輩素町人と趣きを異にする純潔の意義あることを神聖と云ふことだらうと思ふ生産の本能は多く勞働にあるので商家の賣品も勞働の結晶なれば之れを取次ぎ販賣するは不生産にして何等生産力なからう生産は一般に於て市價を保つ財貨なり故に富國も民福も勞働生産の消長に關係あること更らに瞥するの評價なしだ本邦從來の仕方を案ずるに事實上資本家の所謂固定資本と融通資本の主位を占むる職工勞役者を全然別途のものと解する方寧ろ多く然しながら其意義に於ては同一の歩調を辿らざるべからざるものなるに經路を別に取るから階級問題も起り八ケ間敷くなるのである職工勞役者を雇傭契約者の對手方と解するが如き態度に出ること往々あれども職工勞役者を融通資本と解すれば被雇人ではない均く資本家であると云ふことが意義の上に於てなりはせぬか故に解約事故發生の場合は相當の安定力ある處置に出づるものであることは勿論で又た涙金とか手當とかの名目に若干の慰撫を爲しつゝある資本家營業人もあるだらう之れ等を以て徹底的に勞働の安定と云ふ意義には少々心細きことゝ思ふ勿論今日迄は雇人被傭人との關係は民法規定の雇傭契約法を準用するは當然であるが勞働行爲は商家の小僧を取扱ふとは其性質に於て異つて居るものにはあらざるか研究の餘地ありと思ふ然し前者が相當價値ある言致とすれば弊害も自動的又は他動的に職工勞役者の移動事故に伴はんなれども、此等諸種の弊害は規約を以て防ぐことはなんでもない唯だ安定と云ふ意義を解するには準資本家と認むるが平和でよからうと思ふ勞働關係法規勞働組合法其他勞働調停法勞働保險法等出現の上は諸方面を徹底せむ社會生存競爭上凡そ何事業にても集合力に依る團體機關にあらざれば成果を擧げ難し況んや人と云ふ字に既に兩方持ち合せの形なり去れば双體的に出づる社團結社結合皆な人と云ふ字の意義を雄辯に語つて居る生産の本能を物質的の範域にすれば諸科學應用の其極を西洋に採り技工の優越を主眼とせざるべからず之れをするには本會有爲の各位が自覺數奮闘努力を待つものである富國發展を促進するには物質的産業技工の優越にあり國防用兵の強きを促進するには靈能的德義の優越にあり。

革新同志會設立を祝す

雨期すぎて實梅が目立つ肥りかな　琴人

擴張委員

田植歌廣き田面に響かせて　同人

同志會成りしを祝ふ

慈雨吸て枝に撓はつ實り梅　閑人

蒼空に心躍らして仰ぐ幟鯉　同人

祝句

夏月の大きく昇る廣野哉　佳人

夕立に一際松の緑かな　一山

革新同志會の設立を祝して

花大にして根締り堅き牡丹哉　巴人

激流に登る勢や鮎の意氣　同人

我が同志會

眠る夜を明るく照らす螢哉　四友

會員の増加

一人増へ二人増へつ納涼臺　同人

會の隆盛を祝して

苔清水見上げる山の高さ哉　南隅子

親も子も要に耐へる扇哉　同人

思ふまゝに

鳩の目玉

時代は用捨なく進む者である、遠慮會釋もなく眼にも止まらない迅力で進むで居るのである、吾人等は此時代に後れない樣に常に活眼を見開き